

一 般 (個 人) 質 問 通 告 一 覧 表

令和4年第2回笠岡市議会定例会

3月8日・9日(2日間)

通 告 者	質 問 事 項	質 問 の 要 旨	答 弁 者
1 栗尾 典子	1 笠岡の歴史文化の継承とまちづくりについて	<p>私たちは先人から受け継いできた多くの歴史文化の上に今を重ねて生きている。歴史文化は人間の存在を基礎から支えるものである。しかし、平成31年3月にできた笠岡市歴史文化基本構想にもあるように、人口減少や少子高齢化により担い手が減少傾向にあり、継承が困難になりつつある今、有形、無形の歴史文化遺産をこれからどうしていくのか。笠岡市として何をどのように保存・活用していくのかを真剣に考え、取り組んでいかなければならない時に来ている。このことがこれからの笠岡のまちづくりに大きく関わってくることは明らかである。笠岡らしさはこれまでの歴史文化の中にあり、「笠岡ならこれだ」というものを守っていかなければならないと考える。それらを踏まえて、これからの笠岡のまちづくりについて、以下のことを尋ねる。</p> <p>(1) 貫閲講堂の存続活用に関する要望書の回答において、「地域間の公平性」も考慮して今後の方針を決定するとあるが、貫閲講堂は市民会館同様に使用してきた歴史がある。笠岡市全体の財産と認識をしているのか、笠岡地区の財産と認識をしているのか。</p> <p>(2) 全ての歴史文化遺産を保護していくことは現実的に困難であるならば、何をどのように保存活用していくのかという基本方針が必要となってくる。基本構想に基づく基本方針や行動計画(アクションプラン)はどうなっているのか。評価軸、評価基準を設</p>	<p>市 長</p> <p>”</p>

		<p>定するなどの検討はあるのか。</p> <p>(3) 笠岡市の歴史と文化を伝える郷土館の移転について具体的な検討があるのか。また、方向性はどのようになっているのか。</p> <p>(4) 2002年に完了した駅前土地区画整理事業当時は、歴史文化遺産の学術的評価と町並みや景観が分断されていた。寺町の趣は無視され、多宝塔のみが取り残されたようなことになっている。しかし、その後、国土交通省から2008年に「歴史まちづくり法」が公布・施行された。これは歴史や伝統を反映した活動とそれが行われる建造物や市街地とが一緒になって形成している市街地環境(歴史的風致)の維持向上を図るための法律のことである。つまりこの法律は、そのまち特有の趣を重視したまちづくりを進めている。また、学術的評価とまちづくりは必ずしも一致したものではないとも考える。これからの笠岡市は何を大切にし、何を守っていこうとしているのか。</p> <p>(5) 笠岡市における歴史文化を生かしたまちづくりの課題として、市民の認識不足や各地区間の知識の共有ができていないことも上がっている。笠岡市歴史文化基本構想には郷土の先人についてまとめた項は無い。50周年記念に文化連盟が「心にのこる笠岡のひと」として10名の足跡が記されているのみである。地域の先人の経験や体験は現代に生きる私たちにとって最も身近でわかりやすい生き方の手本であり、地域の歴史や文化、特性を考える優れた素材である。先人から受け継ぐ業績や足跡(レガシー)を学ぶことが人づくり、まちづくりへとつながると考える。先人のレガシーをどのよう</p>	<p>市長</p> <p>〃</p> <p>〃</p>
--	--	--	-----------------------------

		に伝えていこうとしているのか、現在の施策と今後予定している施策があるのか。	
2 山本 聡	1 笠岡市新病院基本構想について	<p>人口減少，少子高齢化が進む中，予期せぬウイルス禍など医療需要が今後も大きく変化することが見込まれており，国が進める医療提供体制の改革と連携し，地域ごとに適切な医療提供体制を再構築することが求められている。医療ニーズを的確に捉え，地域医療の確保と公立病院のさらなる経営改革に取り組み，より適切な医療提供体制を再構築することは喫緊の課題である。笠岡市民病院において，基本構想を踏まえた取組の進捗状況を尋ねる。</p> <p>(1) これまでの病院改革の取組と新型コロナウイルス感染症対応について</p> <p>(2) 地域の医療機関(病院間)の機能分化，連携強化について</p> <p>(3) 医師の確保について</p> <p>(4) 今後の有識者会議の在り方について</p>	市 長 " " "
	2 企業版ふるさと納税について	<p>企業版ふるさと納税(地方創生応援税制)を活用した地域再生のための取組について，過年度の実績及び創生計画による地域ビジョンを尋ねる。</p> <p>(1) 企業数，納税額(活用事例)について</p> <p>(2) 創生計画の特徴(笠岡のアピールにつながるもの)</p>	市 長 "
	3 子育て世代の増加に向けて	<p>地域の再生，魅力あるまちづくりの要諦は子育ての環境整備である。再生計画でも示しているとおり，結婚から子育てまでの支援事業について尋ねる。</p> <p>(1) 妊娠，出産環境の整備について</p> <p>(2) 就学前支援(0～4歳児までの経済的応援など)について</p> <p>(3) 親子3世代同居に係る住宅改築費補助及び空き家活用のための住宅改築費補助につ</p>	市 長 " "

		いて	
3 真鍋 陽子	1 新型コロナウィルス感染症について	<p>(1) 笠岡市における新型コロナワクチン接種後遺症の数を尋ねる。</p> <p>(2) 5歳から11歳の子供たちへのコロナワクチン接種における効果についての見解を尋ねる。</p> <p>(3) 新型コロナウイルス感染症及びワクチン接種に起因する誤解や差別が起きないように、笠岡市内においていかに周知徹底をしているのかを尋ねる。</p>	<p>関係部長</p> <p>関係部長</p> <p>教育長及び関係部長</p>
	2 移住・定住・関係人口政策について	<p>(1) デジタル田園都市国家構想とは何かを尋ねる。</p> <p>(2) 東京一極集中の動きが鈍化している一方、東京からの転出は東京近郊へ偏った状況にある。大都市圏からの転入者を増加させるために笠岡市が行っている施策の中で、最も効果的だと捉えているものは何かを尋ねる。</p> <p>(3) サテライトオフィス等開設サポート補助事業の成果を尋ねる。</p> <p>(4) 市内で生まれ育った子供たちが笠岡の良さを知ることが大切であることはもちろん、市外に転出した後も笠岡市とつながりを持ち続けることが必要だ。将来的なUターン就職への関心を高めるため、高校を卒業する方々や、成人式に出席する方々などに、市内で行われるイベント、市役所や市内企業で行われるインターンシップ、採用や事業後継を希望している会社情報などに特化して情報をお届けする仕組みを構築し、広報することはできるかを尋ねる。</p>	<p>関係部長</p> <p>〃</p> <p>〃</p> <p>〃</p>
	3 給食について	<p>(1) 笠岡市内における学校、幼稚園、認定こども園において地元産食材が使用されている割合を尋ねる。</p>	<p>関係部長</p>

		<p>(2) 笠岡市内における学校，幼稚園，認定こども園における米飯の割合を尋ねる。</p> <p>(3) 令和3年12月10日，給食に有機栽培の野菜が使われた。総社市産のニンジンを使用することになった経緯，メニューが親子煮となった経緯を尋ねる。</p> <p>(4) 笠岡市内で捕獲されたイノシシ肉を，将来的に，学校給食に限らず給食献立に使うというビジョンはあるのかを尋ねる。</p> <p>(5) 新山まちづくり協議会では毎年，6月から9月を除く月に，はと麦味噌を定期的で作っている。地産地消を勧める一環として，新山産はと麦味噌を学校給食に限らず給食献立で提供できないか。</p> <p>(6) 備前市ではこの4月から，市内全小中学生の給食費を無償にする方針を明らかにしている。新型コロナウイルス感染症が感染拡大する中，社会全体における見えにくい貧困が視覚化されてきている今，笠岡市においても学校給食の無償化は目指すべき政策と考えるが，市長のビジョンを尋ねる。</p>	<p>関係部長</p> <p>〃</p> <p>〃</p> <p>〃</p> <p>市長</p>
	<p>4 プラスチックごみゼロ宣言について</p>	<p>(1) プラスチックごみゼロ宣言とは何かを尋ねる。</p> <p>(2) 岡山市，倉敷市が民間企業や財団法人とタイアップし，限りある資源の有効な活用と海洋プラスチックごみ対策を目的として，ペットボトル回収事業を開始している。笠岡市において，このような具体的かつ実態を伴うプラスチックリサイクル対策はどのようなものを考えているのかを尋ねる。</p> <p>(3) 真庭市では無料で水筒などに水を入れることができる給水スポットを市内で増やしている。笠岡市内においてもこのような取組が行われる予定はあるのかを尋ねる。</p>	<p>関係部長</p> <p>〃</p> <p>〃</p>

		(4) 市内スーパーマーケットやコンビニエンスストアなどにおいて市指定の可燃ごみ袋をレジ袋として使用することで、ごみとして捨てられてしまうレジ袋の総量を抑えることができる。そのような社会実験を行う予定はあるかを尋ねる。	関係部長
4 仁科 文秀	1 地域の生活課題について	<p>この冬、経験したことから3つの内容について質問する。</p> <p>(1) 本市の65歳以上の人口は16,000人を超え、令和2年度の高齢化率は全国平均、岡山県平均を上回る36.5%である。寒さが続いた1月から2月にかけて地域で突然亡くなる人が相次ぎ、寂しい冬になった。家族と共に住んでいる人はともかく、一人暮らしの人の突然死もあった。以下、お尋ねする。</p> <p>(ア) 笠岡市における一人暮らしの現状、本市の支援と対策</p> <p>(イ) 「命のバトン」制度の現状と課題</p> <p>(ウ) 地域の高齢者、障害者を支える民生委員の現状、問題点、対策</p> <p>(エ) 愛育委員、福祉委員など、支援が必要な高齢者を支える人たちと民生委員や地域との連携</p> <p>(オ) 市民の生命や災害時など、緊急性が高い場合の個人情報の取扱いにおける本市の考え方</p> <p>(2) 毎年進む空き家の増加と耕作放棄地の拡大に関してお尋ねする。</p> <p>(ア) 市内の空き家は、ここ10年のうちに倍増するのではないかと心配する。空き家については、現在、本市の条例改正が進められている。新しく緊急応急措置条項が盛り込まれ、特定空家になることの防</p>	<p>関係部長</p> <p>〃</p> <p>〃</p> <p>関係部長</p> <p>市長</p> <p>関係部長</p>

		<p>止、状態の改善を図る支援も明記されている。本市として、今まではできなかったが今後できるようになる支援は何か。</p> <p>(イ) 改正した条例については、空き家の所有者等にいつ、どのような内容で周知するのか。</p> <p>(ウ) 1月から2月にかけて「農地における利用の意向調査」があった。この調査の目的は何か。また、この調査について、本市としてどうしたいのか、どうしてもらいたいのかを明確にして発信すべきだと思うが、どう考えるのか。</p> <p>(エ) 就農者や農地管理者の減少で、今後は今まで以上に田畑が荒れてくることが予想される。そうした事態を防ぐために「農地維持支払交付金制度」(多面的機能支払交付金制度の一つ)などがある。集落を挙げてこうした制度が活用でき、耕作放棄地の拡大を防止できるように本市としてさらに強力で支援できないか。</p> <p>(3) 岡山県が推進するという「二地域居住」に関連してお尋ねする。</p> <p>(ア) 都市に生活拠点を残しながら、週末などに地方で暮らすライフスタイルの「二地域居住」について、本市の考えと本市としての今後の取組</p> <p>(イ) さらに、実家や田畑の管理、親の介護や見守りなど、目的は違うが、週末や月に、あるいは2、3か月のうち何日か生まれ育った笠岡で過ごしている人たちは少なくない。住民票は笠岡市にはないが、市民に準ずる活動をしている人もいる。こうした人たちを本市としてどう考えるのか。何か郷土笠岡との関係づくりがで</p>	<p>〃</p> <p>〃</p> <p>〃</p> <p>関係部長</p> <p>〃</p>
--	--	---	---

		きないか。	
--	--	-------	--